



# ときまわまつ

学校再開に向けて、

校長 加藤 真寿美

緊急事態宣言が解除となり、渋谷区では6月1日より分散登校を始めることとなりました。今まで通りの学校生活とはいきませんが、子供たちと過ごす時間がもてることは、大変うれしく、大きな前進です。この日を教職員みんなが、待ち望んでいました。

休校期間中は、保護者の皆さまに、様々な面でご理解・ご協力をお願いいただき、本当にありがとうございました。子供たちの健康管理はもちろんですが、特に、学習課題に関してはお互いのご協力をいただき、感謝しかありません。学校では、今までに経験のない状況の中で、どのように子供たちの学習を保障していくかを常に考えてきました。渋谷区では、一人1台タブレットが配布されているという強みを生かして、タブレットを活用した学習計画を進めてきました。

教員も試行錯誤の連続でしたので、協力していただく中で頂いたご意見やご要望は、大変参考になりました。ありがとうございました。また、教員以上に、子供たちの苦勞も大きかったと思います。

タブレットの操作には個人差もありますし、特に低学年は学校での使用経験がほとんどない中、一人で学習に取り組むことは難しかったと思います。ご家庭との連携がなければ、成り立ちませんでした。特に、オンライン学級活動の準備の際は、お力を貸していただきました。そのおかげもあり、子供たちの顔を見ながら、声を聞きながら、様子をすることができました。その時の子供たちのはにかんだ表情や担任の笑顔が、目に焼き付いています。子供たちを目の前にすると、自然と笑顔がこぼれるから不思議です。子供たちが在ったの学校であることを強く感じました。子供たちがいなければ、学校は成り立ちません。

今後は、休校期間中に子供たちが取り組んできた課題を確認し、

理解していること・理解が十分でないことは何かを、しっかり把握しながら進めてまいります。課題を出したからそれでおしまいにはいたしません。理解が十分でない部分については、全体指導や個別指導を行いながら、習熟を図ってまいりますので、ご安心ください。

また、学習と同様に、子供たちへの心身への影響も気がかりです。

体力面については、分散登校日に体育の授業を設定し、体を動かす運動を取り入れていきます。はじめは無理をせず、体を慣らしていきますが、徐々に運動量を増やしていきます。感染防止対策に配慮しながらの活動になりますので、様々な制限はありますが、工夫をしながら、体力の向上と運動する心地よさを感じてもらえるよう指導していきます。

心のケアについては、子供たちの気持ちに寄り添いながら焦らず丁寧に進めていきます。この2か月間、子供たちは様々なストレスを抱えながら、毎日を過ごしていたと思います。感染予防に気を配ること、自由に外出できないこと、友達に会えないこと……など、数え上げたらきりがありません。よく頑張ってきたと思います。まずは、その頑張りを受け止め、声をかけたいです。そして、これからの学校生活を徐々にではあるけれども豊かにし

ていくことを約束したいと思っています。子供たちに会えることが、楽しみでなりません。担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーとも連携しながら、子供たちの不安を軽減していきたいと思っています。

まだまだこの状況が終息したわけではありません。「新しい生活様式」が提案され、長い時間をかけて日常生活を取り戻していく必要があるようです。学校でもその点を踏まえて、対応をまいります。学校での感染防止に対する取組や分散登校については、ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。また、心配なことやご相談があるときは、いつでもお問い合わせください。

最後に、ご存知の方もいるかもしれませんが、反響を呼んだイラストレーター・タナカサグユキさんが詠んだ短歌を紹介します。

しばらくは 離れて暮らす

つぎ逢ふ時は 君といふ字に  
(コとロとナを組み合わせると、君という字になります。)

感染拡大で、会いたくても会いに行けない人たちの「終息してほしい」という願いを反映した作品です。多くの人たちが共感した気持ちがあります。私自身の心にも深く響きました。